

目次

● 第1章 主語の決め方

- ① 主語が省略されている場合 9
 - (1) 「一般の人々」と考える 9
 - (2) 文脈・前後関係などからわかるもの 10
- ② 主語が明記されている場合 12
 - (1) 「無生物」が主語になる 12
 - (2) Itが主語になる 13
 - (3) いくつかの主語が可能である 13
 - (4) 「...が」「...は」は必ずしも主語にはならない 14

● 第2章 重なっている意味と重なっていない意味

- ① 二語の意味が重なる 25
- ② 一語が他の語の意味を含む 26
- ③ 意味の異なる日本語が一語の英語に含まれる 27
- ④ 二語の英語が一語の日本語に含まれ、
それらの英語どうしが少し重なっている 28
- ⑤ さらに複雑な例だが、
やはりこれまで学んできた原則に基づいている 29

● 第3章 「時」にかかわる二つのポイント

- ① 副詞からのヒント 37
- ② 接続詞などで導かれている“節”の中の動詞 39
- ③ 隠れた動詞の時制・態 41

● 第4章 難しい語句をやさしい語句に

- ① 一見難しく思われる漢字をやさしい語句になおす 51
- ② 慣用的な言い回しや修辭的な表現について 54

● 第5章 肯定文と否定文の転換テクニック

- ① 肯定文 ⇔ 否定文の転換の要領 68
- ② 反意語を逆さまにしてみる (A = not \bar{A}) 71
- ③ 入り組んだ文を簡単にする (否定の否定 = 肯定) 73

● 第6章 言葉のウラを吟味する

- ① 慎用的な使い方 83
- ② 比喩的な使い方 85
- ③ 擬人化 87

● 第7章 受動態で書くか、能動態で書くか

- ① 受動態でも能動態でも大差のないもの 98
- ② 英語では必ず受動態で表現するもの 100
- ③ 受動態が表す二つの意味：動作と状態 101
- ④ その他の受動的な表現 102

● 第8章 修飾語をどうするか

- ① 副詞の位置 113
 - (1) 動詞を修飾する場合 113
 - (2) 特定の時・場所を示す副詞 115
 - (3) 形容詞や他の副詞・句・節を修飾する場合 116
- ② 形容詞の位置 117
 - (1) 名詞の前に来る場合 117
 - (2) 名詞の後に来る場合 118

● 第9章 イディオムや決まり文句を使ってみる

- ① 「気」のイディオム 128
- ② 「心」のイディオム 130
- ③ 「頭・顔」のイディオム 131
- ④ 「目・口・耳」のイディオム 132
- ⑤ 「手・足」のイディオム 134
- ⑥ 「胴体」のイディオム 135

● 第10章 前置詞が決め手の表現

- ① 「of = の」がなりたないとき 145
 - (1) ofが「の」とならないとき 145
 - (2) 「の」がofにならないとき 146

② 「～まで (は / に)」 = till / until, to のどれか 147
 (1) 「～まで (は)」は「時」「場所」 147
 (2) 「～まで」と「～までに (は)」 147

③ 「...ため (に)」は「原因」「理由」「目的」のいずれか 149
 (1) forは「原因」「理由」「目的」のいずれにも使える 149
 (2) 次の「ため (に)」はいずれも「原因」「理由」を表す(言い換えも可) 149
 (3) 次の「ため (に)」に用いる前置詞に注意(言い換えも可) 149

④ 時間の表し方は for, during, in のどれか 151
 (1) forの用法 151
 (2) duringの用法 151
 (3) inの用法 151

● 第11章 会話体の文章を英訳してみる

① Yes / No に対する注意 165
 ② 付加疑問 167
 ③ 答え方 168
 ④ 丁寧な表現 170

INDEX 178

第1章

主語の決め方

英語とは異なり、日本語の文ではしばしば主語が省略されます。したがって主語が省略されている日本語を英文になおす場合には、その主語を補って文を作らなければいけません。

また、主語が明記されている日本語でも、それをそのまま英文になおした場合に不自然な英語になることがあったり、あるいは別の主語を用いても英文になおすことができたりします。

この章ではそうした主語の取り扱いを学ぶことにします。

① 主語が省略されている場合

(1) 「一般の人々」と考える

基本例 (a)

▶ 何をやるにしても、努力と辛抱なしにはそれを続けていくことはできない。
 → Whatever you (may) try, you can't keep it up without effort and patience.
 → No matter what one tries, one can't continue it without effort and patience.
 may try

この文は一般論を述べていると考えられます。つまり述べられている事柄はどんな人にでも当てはまります。したがって、誰でもよい「一般の人々」を指す語を主語にすることになります。「一般の人々」を指す語には、**you / one / people / we** などがあります。ただし、we は「我々⇔他の人たち」という排他的な感じが残るためか少し子供っぽい感じがすることがあります。また、one だけは三人称単数扱いになることに注意してください。